

実施クラス	実施日
5 歳児 らいおん 組	6 月 23 日 (月)

● 実施計画

活動テーマ		
光のマジックであそぼう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
前回行った10円玉が消えたマジックが印象的だったようで話題に上がっていた		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00	◎前回行った10円玉マジックを思い出し光の屈折について振り返る	〈環境設定〉 ・油を扱うためそれぞれカップに印をつけて置き目で見てわかるようにする。また児へも呼びかけを行う。 ・児の発見や意見を受け止めていく 〈準備物〉 ・透明カップ3つ ・水 ・油 ・ストロー ・ホワイトボード
10:40	◎水を全量入れたカップ、半分入れたカップ、油を入れたカップの3種類を用意し、それぞれ10円玉がどうなるか予想する →やってみた結果どうなったのかそれぞれ意見を出す ◎先ほど使用した3つのカップにストローをいれるとどのように見えるか予想する →その様子を再び意見を出し合ってみる ◎なぜ10円玉が消えて見えたり、ストローが曲がって見えたりのか考えて話し合う →光の屈折が関係していることに気が付く	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・それぞれの活動では「なぜ曲がって見えるのか」「なぜ消えるのか」と驚いたり疑問に持ちながら活動に取り組んでいた。 ・同じ角度だけでなく様々な角度から見てみることで見え方が異なることに気付いて楽しんでいた。	〈子どもの姿や声〉 ・「こっちは1つしか見えないのに反対から見たら3つに見える」となぜそのようになるのか疑問を持っていた ・「油を水に入れるとブクブクするんだね」と新たな発見をしていた ・「反射するって楽しいね」と改めてその不思議さや楽しさを感じていた

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・10円玉の実験、ストローの実験それぞれ結果的に大きな変化はあまりないものの児は様々な見方をすることで新しい気づきがあり、自ら探求することをたのしめていたのではないかと感じる ・児の予想とは異なった結果でも驚きの方が勝っており、探求する気持ちもそこで高まるのでそのタイミングで言葉掛けを行っていきたい	光の屈折…という意味が児たちにどんな風に伝わるのか興味深いものがあったが、10円玉マジックによって明かされていくことに児たちのわくわくが止まらない様子で、こんな風に学べるのがすごいなと感心した。

実施クラス	実施日
5 歳児 らいおん 組	9 月 26 日 (金)

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ~食べる~ 食べ物の旅マップを作ろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
食べ物が畑や海など自然から生まれ、育てる人・運ぶ人・調理する人といった多くの手を経て自分たちの食卓に届くという「食べ物の旅」をイメージができ、マップづくりの活動への意欲につながっている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00~10:10	・前回の活動を振り返る。	【環境設定】 ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にす。
10:10~10:30	・食べ物が食卓に届くまでの旅を制作するための作成方法や画材を話し合う。 ・必要な用具を用意する。	
10:30~10:40	・完成のイメージをもちながら、製作を進める。 ・作製した食べ物の旅マップを見ながら、活動を振り返る。	
		【準備物】 ・食べ物の絵本 ・前回までの活動の記録 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・子どもたちから必要と意見が上がったものを準備する。(例えば、クラフト用紙、絵の具、クレヨンなど) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
		【事前準備】 ・前回の活動の記録をホワイトボードなどに貼り出し、振り返りやすい環境を整える。 ・制作しやすいよう、作業スペースを設定する。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・前回の活動内容の振り返りから始め、子どもたちが自分の体験や気づきを言葉にすることで学びを整理し、次の探究への関心を高める。 ・必要な用具を用意し、完成のイメージをもちながら、製作を進める。 ・完成したマップを見ながら活動を振り返った。	【子どもの姿・声】 ・前回の活動で調べて得たことを思い出ししながら、写真を貼ったり、絵や線を描いて道をつなげたりすることに夢中になっていた。 ・友だちと相談しながら「こっちが先だよ」「スーパーを通らないとお家に行けないよ」と順序を考える姿があり、食べ物の流れを自分なりに組み立てて表そうとしていた。 ・完成したマップを見ながら「たっくさんの人が手伝ってくれてるんだね」「食べ物っているところから来てるんだね」と振り返り、調べたことを自分たちなりの言葉で再確認していた。 【保育者との関わり】 ・「どこから始まるかな?」「このあとどうなるんだっかな?」と問いかけながら、子どもたちが前回調べた知識を思い出して製作に生かせるよう支援した。 ・表現をサポートしながら、一人ひとりの表現を認めていった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・前回の活動で調べた内容を、自分の手で表現することによって、子どもたちは食べ物の旅をより具体的に理解しようとしていた。 ・単なる知識の再現ではなく、友だちと相談しながら順序やつながりを考える姿から、学びを組み立て直す力が育ちを感じた。 ・完成したマップを見て達成感を味わいながら「食べ物は長い旅をして届く」「いろんな人が関わっている」と再確認する姿に、探究の成果を生活感覚に結びつけていることがうかがえた。 ・製作を通じて、子どもたちの理解が「調べて知ったこと」から「自分で表現できること」へと深まっていた。	今月のテーマの食べ物について様々な考え方がわかったり、いろいろな人かかわりから自分たちの口に入るのだということをはっきりわかったのではないかと思う。また友だちと話し合ったことで得られた情報もあるので大きな成長の収穫があったと思った。

実施クラス	実施日
5 歳児 らいおん 組	11 月 18 日 (火)

● 実施計画

活動テーマ	
色 色の世界をのぞいてみよう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
色への興味関心が深まっているのか、普段の遊びの中に色鬼を自ら取り入れて楽しんでいる	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00	<p>◎暖色、寒色、中性色について思い出す</p> <p>◎カラーセロハンを見せて双眼鏡を作ることを提案する</p> <p>トイレットペーパー2本それぞれにカラーセロハンを貼ったあとトイレットペーパーを合わせて完成させる</p> <p>◎作った双眼鏡で周囲を見る</p> <p>どのように見えたのか保育者や友達と意見を交換する</p>
	<p>〈環境設定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が初めから答えを提示するのではなく、児が考える時間や発言する時間を作っていく ・各テーブルで材料を分けて使えるよう用意しておく <p>〈準備物〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・トイレットペーパー ・カラーセロハン ・OPPテープ

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・暖色、寒色、中性色について振り返ることでこれまでの活動を思い出したりこれからの活動への意欲を持つ ・カラーセロハンを使用することへ期待感を持ちながら、それぞれのカラーセロハンが暖色、寒色、中性色のどこに当てはまるのか発言する ・作った双眼鏡が予想と違って見えたら驚きを見せていたり、理想の見え方になるよう何度も試したりしながら楽しんでいた 	<p>〈子どもの姿や声〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全部合わせると真っ黒になって何も見えない」とすべての色を使った結果に驚く ・「片方は海で片方は山に見える」と自分なりに言葉にして表現する様子があった <p>〈保育者との関わり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使うカラーセロハンの色や枚数を指定せずに見守ることで児が自分自身で発見することや不思議さを楽しめるようにする

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・以前光を扱った活動でカラーセロハンを使用していたが、今回の色をテーマに活動すると同じカラーセロハンでも見え方が変わったり光がないと黒く見えることに気が付いたり改めて知ることも多く、自分で探究する意欲が持てたのではないかと思う ・双眼鏡の見え方では「海みたい」「こっちはゾンビが出てきそう」など見らしい発言が沢山聞くことができた 	<p>「暖色」「寒色」「中間色」など今まで考えた事がない色合いにめぐり合わせたことで、探究するものが倍以上に増えたのではないかと思った。またカラーセロファンを使用することでまた違う世界観を味わうことができたのではないかと思った。そして子どもの心がのぞけそうな言葉もでており良いテーマのもと学習できたと思った。</p>